(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3543523号
(P3543523)
(45)発行日　平成16年7月14日(2004.7.14)　(24)登録日　平成16年4月16日(2004.4.16)

(51)Int.Cl.[7]	F I		
A61K 7/00	A61K	7/00	Z
// A61K 7/42	A61K	7/00	C
	A61K	7/00	J
	A61K	7/42	

請求項の数 1　(全 6 頁)

(21)出願番号　特願平8-356994
(22)出願日　平成8年12月26日(1996.12.26)
(65)公開番号　特開平10-182348
(43)公開日　平成10年7月7日(1998.7.7)
審査請求日　平成13年12月5日(2001.12.5)

(73)特許権者　000145862
株式会社コーセー
東京都中央区日本橋３丁目６番２号
(74)代理人　100089406
弁理士　田中　宏
(74)代理人　100096563
弁理士　樋口　榮四郎
(72)発明者　谷戸　浩一
東京都北区栄町４８番１８号　株式会社コーセー研究所内
(72)発明者　武藤　正和
東京都北区栄町４８番１８号　株式会社コーセー研究所内

審査官　岡崎　美穂

最終頁に続く

(54)【発明の名称】ボディ用化粧料

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
次の成分（Ａ）～（Ｅ）：
（Ａ）トウモロコシデンプン、バレイショデンプン及びタルクから選ばれた一種又は二種以上の粉体
（Ｂ）エタノール
（Ｃ）水
（Ｄ）カルボキシビニルポリマー
（Ｅ）アミノメチルプロパノール、ジイソプロパノールアミン及びトリイソプロパノールアミンから選ばれる一種又は二種以上の有機塩基
を含有し、且つ、（Ｂ）成分の含有量が３０～９５重量％であることを特徴とするボディ用化粧料。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は化粧料に関し、更に詳細には、良好な清涼感を有し、且つ、さらさら感に優れた、使用性の良好な化粧料に関する。
【０００２】
【従来の技術】
従来、皮膚にさらさら感を付与するため、化粧料に各種粉体を配合する試みがなされてい

る。一例として、粉体を配合した化粧水や乳化化粧料等がある。
【０００３】
【発明が解決しようとする課題】
一般に、粉体を配合した化粧水としては、アルコールを含む水系ローションに粉体を配合した二層型化粧水が挙げられる。しかしながら、このような剤型のものは、使用中の清涼感や使用後のさらさら感は得られるものの、液状であるために肌に塗布し難く、また、経時的に粉体が凝集して再分散性が悪くなるという欠点を有していた。そこで、使用性を向上させるために、水溶性高分子等で粘性をもたせる方法が考えられるが、アルコールを多量に配合する場合、充分な粘性が得られなかった。一方、乳液やクリーム等の乳化化粧料に粉体を配合した場合は、油剤や界面活性剤を配合するために、良好な清涼感や粉体のもつさらさら感が得られ難いという問題があった。したがって、使用中の清涼感並びに使用後のさらさら感が良好で、使用性に優れる化粧料の開発が望まれていた。
【０００４】
【課題を解決するための手段】
上記実情に鑑み、本発明者等は鋭意研究の結果、特定の塩基で中和したカルボキシビニルポリマーゲルに粉体並びに多量のアルコールを配合することにより、優れた使用感を有する化粧料が得られることを見出し、本発明を完成するに至った。すなわち本発明は、次の成分（Ａ）～（Ｅ）；
（Ａ）トウモロコシデンプン、バレイショデンプン及びタルクから選ばれた一種又は二種以上の粉体
（Ｂ）エタノール
（Ｃ）水
（Ｄ）カルボキシビニルポリマー
（Ｅ）アミノメチルプロパノール、ジイソプロパノールアミン及びトリイソプロパノールアミンから選ばれる一種又は二種以上の有機塩基
を含有し、且つ、（Ｂ）成分の含有量が３０～９５重量％であることを特徴とするボディ用化粧料である。以下、詳述する。
【０００５】
【発明の実施の形態】
（Ａ）成分の粉体としては、トウモロコシデンプン、バレイショデンプン、タルクが挙げられ、これらの一種又は二種以上を適宜選択して用いることができる。（Ａ）成分の配合量としては特に限定されないが、好ましくは、５～２０重量％（以下、単に「％」と記す）である。
【０００６】
（Ｂ）成分のエタノールの配合量は、３０～９５％であり、好ましくは、５０～８０％である。（Ｂ）成分の配合量が３０％未満であると良好な清涼感を得ることができず、また、９５％を超えて配合すると、後述するカルボキシビニルポリマーを配合しても良好な使用性を呈する粘性を得ることが困難となる。
【０００７】
（Ｃ）成分である水の配合量は、エタノールの配合量により異なるが、好ましくは、１０～４０％である。
【０００８】
（Ｄ）成分のカルボキシビニルポリマーとしては、例えば、カーボポール９４０、カーボポール９４１、カーボポール１３４２（Ｇｏｏｄｒｉｃｈ社製）やペミュレンＴＲ－１、ペミュレンＴＲ－２（Ｇｏｏｄｒｉｃｈ社製）等が挙げられ、これらの一種又は二種以上を適宜配合することができる。（Ｄ）成分の配合量は特に限定されないが、好ましくは、０．１～１．０％である。
【０００９】
（Ｅ）成分の有機塩基は、アミノメチルプロパノール、ジイソプロパノールアミン及びトリイソプロパノールアミンから選ばれる一種又は二種以上の有機塩基である。水酸化ナト

リウムや水酸化カリウム等の無機塩基では、エタノールを多量に配合した場合、充分な粘性が得られない。上記の有機塩基を用いることにより充分な粘性が得られ、本発明の効果が発揮される。（Ｅ）成分の配合量は、（Ｄ）成分の配合量によって異なるが、好ましくは、（Ｄ）成分の０．３～２．０倍量である。この範囲内で使用性に適した粘性を得ることができる。

【００１０】

本発明のボディ用化粧料には、上記必須成分に加え、さらに通常化粧料に配合される成分例えば、界面活性剤、油剤、着色料、紫外線吸収剤、紫外線散乱剤、多価アルコール、防腐剤、香料、美容成分等を本発明の効果を損なわない範囲で使用することができる。

【００１１】

【実施例】

次に実施例を挙げて本発明を更に詳述するが、本発明はこれらにより限定されるものではない。

【００１２】

実施例１～５及び比較例１～５　ボディ用化粧料

下記表１及び表２に示す組成のボディ用化粧料を製造し、使用感について官能評価を行った。

【００１３】

【表１】

(%)

(成分)	実施例				
	1	2	3	4	5
1.ﾄｳﾓﾛｺｼﾃﾞﾝﾌﾟﾝ	10.0	5.0	20.0	8.0	8.0
2.ｴﾀﾉｰﾙ	30.0	80.0	50.0	50.0	70.0
3.ｶﾙﾎﾞｷｼﾋﾞﾆﾙﾎﾟﾘﾏｰ(注1)	1.0	0.5	0.5	0.3	0.3
4.ｷｻﾝﾀﾝｶﾞﾑ	—	—	—	—	—
5.ｱﾐﾉﾒﾁﾙﾌﾟﾛﾊﾟﾉｰﾙｱﾐﾝ	0.4	0.2	0.2	0.2	—
6.ｼﾞｲｿﾌﾟﾛﾊﾟﾉｰﾙｱﾐﾝ	—	—	—	—	0.2
7.水酸化ﾅﾄﾘｳﾑ	—	—	—	—	—
8.精製水	残量	残量	残量	残量	残量
(評価項目)					
清涼感	○	◎	◎	◎	◎
さらさら感	◎	○	◎	◎	◎
塗り易さ	○	○	○	◎	◎

(注1)ｶｰﾎﾞﾎﾟｰﾙ1342(Goodrich社製)

【００１４】

【表２】

(%)

(成分)	比較例 1	2	3	4	5
1.ﾄｳﾓﾛｺｼﾃﾞﾝﾌﾟﾝ	—	10.0	5.0	10.0	0.5
2.エタノール	20.0	20.0	50.0	50.0	98.0
3.ｶﾙﾎﾞｷｼﾋﾞﾆﾙﾎﾟﾘﾏｰ(注1)	0.3	—	—	0.3	0.3
4.キサンタンガム	—	—	0.3	—	—
5.アミノメチルプロパノールアミン	0.2	0.2	0.2	—	0.2
6.ｼﾞｲｿﾌﾟﾛﾊﾟﾉｰﾙｱﾐﾝ	—	—	—	—	—
7.水酸化ナトリウム	—	—	—	0.2	—
8.精製水	残量	残量	残量	残量	残量
(評価項目)					
清涼感	×	×	◎	◎	◎
さらさら感	×	◎	△	○	×
塗り易さ	◎	×	×	×	×

(注1)ｶｰﾎﾞﾎﾟｰﾙ1342(Goodrich社製)

【００１５】
(製法)
Ａ：成分３～８を均一に混合し、これに成分２を添加混合する。
Ｂ：Ａに成分１を添加して、均一に混合分散してボディ用化粧料を得た。
【００１６】
(評価方法)
１８～２２才の女性パネル５０名を用いて、使用テストを行った。清涼感、さらさら感及び塗り易さについて下記基準より５段階評価し、さらにそれを平均して判定した。
［評価］［内容］
５点：非常に良好。
４点：良好。
３点：普通。
２点：不良。
１点：非常に不良。
［判定］
◎：平均点４．５点以上。
○：平均点３．５点以上４．５点未満。
△：平均点２．５点以上３．５点未満。
×：平均点２．５点未満。
上記評価方法により得られた結果を表１及び表２に併せて示す。
【００１７】
上記評価結果からも明らかなように、本発明に係わる実施例１～５は、清涼感及びしっとり感に優れ、肌に塗り易く良好な粘性を有するものであった。それに対し、比較例では、全ての項目を満足するものは得られなかった。
【００１８】
実施例６　美容液

(成分)	(%)
１．バレイショデンプン	５．０
２．エタノール	４０．０

３．ポリオキシエチレン（２０）ソルビタンモノオレエート　０．１
４．香料　０．０５
５．カーボポール９４０　０．３
６．グリセリン　５．０
７．アミノメチルプロパノール　０．２
８．精製水　残量

【００１９】
（製法）
Ａ：成分２～４を均一に溶解する。
Ｂ：成分５～８を均一に混合し、これにＡを添加した後、成分１を混合分散して美容液を得た。
実施例６は、肌に塗布し易く、清涼感があり、使用後は肌にさらさら感を付与することができる美容液であった。

【００２０】
実施例７　ボディ用ジェル

（成分）	（％）
１．タルク	２．０
２．トウモロコシデンプン	８．０
３．エタノール	６０．０
４．イソステアリン酸ポリオキシエチレン（５０）硬化ヒマシ油	０．１
５．香料	０．１
６．メチルフェニルポリシロキサン	２．０
７．ペミュレンＴＲ－１	０．２
８．１，３－ブチレングリコール	５．０
９．トリイソプロパノールアミン	０．２
１０．精製水	残量

【００２１】
（製法）
Ａ：成分３～６を均一に溶解する。
Ｂ：成分７～１０を均一に混合し、これにＡを添加した後、成分１～２を混合分散して美容液を得た。
実施例７は、肌になめらかに伸び、ほてった肌に心地よい清涼感とさらさら感を付与することができるボディ用ジェルであった。

【００２２】
【発明の効果】
以上詳述したように、本発明のボディ用化粧料は、優れた清涼感及びさらさら感を有し、且つ、使用性の良好な化粧料である。

フロントページの続き

(56)参考文献 特開平０７－３１６２０３（ＪＰ，Ａ）
特開平０９－０４８７２２（ＪＰ，Ａ）
特開平０９－０４８７２３（ＪＰ，Ａ）
特開平０７－０６９８４９（ＪＰ，Ａ）
特開平０８－００３０１６（ＪＰ，Ａ）
特開平０４－３０５５０４（ＪＰ，Ａ）
特開平０４－２８３５０７（ＪＰ，Ａ）
特開平０４－１０８７１４（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.^{7}，ＤＢ名)
A61K 7/00-7/50